

空間上手

2013
68
WINTER



木で暮らす生活を提案

優しさと光に満ちた二人住まいの理想型

夢つながり

エコで世界に平和を。MODECO名古屋大須本店

匠の技

よい家が建つことを祈る上棟式

心の風景

「愛され収納セミナー」が恵木の杜 恵のサロンで開催されました！

木

で暮らす生活を提案

優しさと光に満ちた二人住まいの理想形

原育三さん・裕子さんご夫妻（愛知県名古屋市中区）

晩秋の穏やかな空の下、今回は名古屋城の南に位置する商業の中心地、中区は丸の内。今年七月にリフォームされたばかりの原様ご夫妻にお住まいについてお話を伺いました。

写真／成田香澄

文／梨本 愛



商品倉庫からお二人用ご住居へ

ご主人が先代より事業を受け継がれて、生まれ育ったこの地に現在のビルを建てられたのは25年前。もともとは1階と2階をオフィスに、3階を倉庫、4階と5階を居住用に使われていました。今回のリフォームでは新和建設とタッグを組んで3階の倉庫フロアの南半分を『ご夫婦お二人でゆっくりと過ごせる居住空間』へと見事に作りかえられたのです。そもそもこのリフォームのきっかけは、ご夫妻がお孫さんたちの健やかなご成長を願う愛情から。すでに独立されご活躍なさっているご子息と三人のお孫さんに4、5階の居住部分をお譲りになり、ご夫妻は3階倉庫の南側約半分にリフォームを計画。ビル新築時から25年来のお付き合いがあった新和建設にご依頼されたそうです。「何かあったらすぐに来てく

あふれる光のリビングダイニング

早速、中をご案内していただくと、まず目に飛び込んでくるのは、まばゆいほどの太陽の光。お住まいの奥に位置するリビングダイニングは、視線をさえぎるものはなく、進みながらも南側いっぱいをお占める6面の窓からの陽光を堪能できるお部屋。窓の向こうに見えるのは街路樹の緑。向かい側に高い建物がないことから眺望も抜群で、お部屋から空へ抜ける感覚も楽しめ開放感もたっぷり。「柱のない造りを」とリクエストされたご夫妻のセンスの良さがうかがえます。街路樹の緑を楽しむ窓の外には、小さなお孫

旧居から持ちこまれたもの

フライテーブルも重宝しているそう。奥様は何も特別な注文はされなかったとおっしゃいましたが、ガスを用いてお料理することや、冷蔵庫の前面がカップボード類と揃うよう、キッチンの後ろに当たるトイレの広さを少し狭くしてもらいなど、使い勝手の良さを十分に考えられた話し合いを、設計時に新和建設と重ねられたようです。

先々を見据えてこだわりぬいたトイレ

廊下を挟んで和室の反対側にあたるトイレは、予定より少し狭くなったとは言っても、幅、奥行きともびっくりするほどのゆとりあるスペースに。落ち着いた雰囲気の家材や無垢の木を使った内装の見事さは、高級旅館のよう。実はこのトイレが、奥様最大のこだわりだったのだとか。介護のご経験から、バリアフリーをご希望されたのはもちろんのこと、個室にも十分な広さを確保し、引き戸を採用するなど、車椅子使用時の動線を想定。ちょうどお宅の中央になるよう、プランを変更されたそうです。

なるほどと思われる工夫は随所に。廊下の床材も小さなお孫さんが遊びにいらつしやることから、傷つきにくいものをセレクト。また、和室に間仕切りを設置することによって、トイレ廊下に出たとき、客間として使われる場合も泊まれたお客様の間仕切りを大切にされるなど、さすがのご配慮です。

以前の住まいに比べてコンパクトになったことで、奥様は「本当に掃除が楽になった」と、にこやかです。そしてご主人からは「ちょっと外出してみようかな」という気になる」という意外なお答えが。どうやらこのお住まいがお二人をより若々しくさせているようです。

大切な人とのつながりを考えて

今までの「暮らし」を想い、長所短所を知りぬいた上で、現在のお二人にとって最適なお住まい造りを叶えられた原様ご夫妻。毎月の仏事の折には、長男一家



さんの安全を考え、もともと予定にはなかった高めの手すりを。細やかな気遣いにも原様の深い愛情が感じられます。

またキッチンを東側に設置することで、暗くなりがちなスペースにも採光を確保。この窓がお部屋全体の明るさにも一役買っています。なんと窓枠は倉庫時代のものを再利用されているのだとか。間取りの配置を工夫することにより、これだけの明るさを実現されたご夫妻に脱帽です。

普段はカウンターでお食事をされているそうですが、来客のときに使えるパタ

にお譲りした旧居の仏間を訪れることで、定期的なコミュニケーションを図られているのだとか。同じビル内での二世帯となりますが、お互いのプライバシーを大切にされた住空間を選ばれたお二人は「食事の時間も違うから、今の形がベスト」と笑顔でおっしゃいます。住むのはご夫妻ですが、小さなお孫さんや、ご親戚も気兼ねなく訪ねられる、人とのつながりを大切に考えたリフォームを拝見できた訪問でした。



PHOTO-ESSAY



旅のスタイルの変化

写真・文／加藤光博

先日、東欧4か国を周遊した。約2年ぶりとなる海外一人旅だ。大学生の頃に、バックパッカースタイルでの一人旅に目覚めてから、毎年かかさず海外へと行っていたので、2年というブランクは初めてのことだった。

旅の仕方はいつもと同じで、往路の着地と復路の発地が異なる航空券の購入のみで、現地での宿泊先や、陸路の手段、立ち寄り先は全て現地で決めて行くというもの。

しかし、久々だったことに加え、10日間で4ヶ国という忙しい日程だったこともあり、いつもは現地に着くまで何も決めない私が、今回は珍しく、事前準備を入念に行った。

準備をしているうちに、何度も思ったことがある。あと、2、3日、休みがあったらなあ、と。

長期休暇の長さに雲泥の差がある社会人と大学生では、旅の仕方そのものが変わってくることを感じずにはいられなかった。

観光地で目にする美しさは変わらないけれど、少しずつ変わりゆく自分の旅のスタイル。

その時の年齢や立場など、そろそろ「いい大人」となりつつある自分と向き合い、その時の自分に合わせた旅を楽しんでいきたいと思った。



あたたかい夢を胸にがんばる人たちは、みんなどこかでつながっている。そんなゆるやかでシアワセな“志縁”をご紹介します。

文・写真／都筑里美

エコで世界に平和を。 MODECO 名古屋大須本店

連絡先: (052) 253-8800
<http://modeco-brand.com/>



名古屋に、新鋭ブランドが誕生した。トータルエコブランド「MODECO」だ。代表は、水野浩行さん。長いまつげと端正な顔立ちが特徴的な28歳の青年だ。急激な成長とは裏腹に、水野はあまりビジネスに興味がないという。

高校卒業後、彼はミュージシャンをしていた。反戦や平和を直接歌うことよりも、目の前のものや身近な人を大切にするのが、平

常な業種のメーカーが、彼に工場廃材を託した。フローリング、ソファ、ブーツ、シートベルトなど素材は様々だ。彼は期待に応える努力をした。

エコ志向の中、工場廃材を使う「アップサイクル」は北欧では既にファッショントレンドになっていた。水野は、北欧のトレンドが日本に入ってくるタイミング

和に繋がると信じ歌っていた。2007年、音楽活動を辞め、彼は実家の美容院でつかう商材を卸す仕事を手伝っていた。ある日、取引先のメーカーから、規格に満たないため捨てられる大量の工場廃材の存在を知る。誰にも使われないのに、捨てられるものの存在に彼はショックをうけた。これはもったいないと、試しに美容院で使うシザーケースを作ってみたのが、彼のものづくりの始まりだ。はじめは売れるつもりもなく、音楽に変わる自己表現だった。試作品を増やしていくうちに、周囲の期待を受け、仲間と会社を立ち上げた。



噂を聞きつけたいろいろな業種のメーカーが、彼に工場廃材を託した。フローリング、ソファ、ブーツ、シートベルトなど素材は様々だ。彼は期待に応える努力をした。

エコ志向の中、工場廃材を使う「アップサイクル」は北欧では既にファッショントレンドになっていた。水野は、北欧のトレンドが日本に入ってくるタイミング

を待った。

2013年6月アップサイクルをコンセプトにした高級ブランドが日本進出をはじめた。それを機に、百貨店へのコンタクトを強めた。ここ数年の間に名古屋、関東の百貨店内にブランド直営店をもつまでにいった。

取材時は、ボランティアが台風で被災したフィリピンへ送る物資の仕分けをしていた。



MODECOはバッグ1つ購入につき、購入者が選んだ社会貢献団体に寄付500円とメッセー지를届ける継続的なチャリティープロジェクト「ECHO PROJECT」をおこなっている。支援先の一つが、震災遺児孤児応援ワンコイン・サポーターズだ。東日本大震災で親を亡くした子どもたちは1724人。震災発生時におなかの中にいた赤ちゃんが、高校

バッグ購入で500円のチャリティ 震災遺児孤児応援 ワンコイン・サポーターズ

事務局：愛知ボランティアセンター
連絡先：090-6590-3117
<http://aichiborasen.org/>



プロジェクトの母体となる愛知ボランティアセンター代表の久田光政さん。

を卒業する2030年まで、応援金を送り続けようという活動だ。2013年10月末現在、4288人のサポーターから6866口、毎月500円の寄付が自動送金で届いている。2011年度・2012年度合わせて約1億3千万円の応援金が約1000人の遺児・孤児に送られた。震災遺児・孤児は1724人、一学年にすると約85人。同じクラスに、同じ境遇の子どもがいる可能性はほとんどない。今年新たに、支援している遺児・孤児たちが様々な思いや悩みを話し合える人間関係づくりを目的に、「でさええ、友だちつぐべえ笑顔プロジェクト」をスタートさせた。プロジェクトの担い手は愛知の高校生・大学生たちだ。メディアではほとんど聞かなくなつた「絆」もここでは確かに息づいている。

ヒトコト： 都筑 里美 さん

アップサイクルのブランドはスウェーデンでは流行っているのを知っていたけど、もつと洗練されたデザインのブランドが名古屋から始まったのを知ってびっくり！

「ECHO PROJECT」で応援している震災遺児孤児応援ワンコイン・サポーターズも、私の友達も何人も参加しています。ご縁を感じうれしく思いました。



よい家が建つことを祈る上棟式

文・写真／武藤悠貴



新和建設では、お客様が家づくりを決断され、新和建設と契約を交わしてから、実際に家が建ち、新居での暮らしが始まるまで、様々な行事（イベント）があります。上棟式もその一つで、とても大切な行事です。

11月19日は、北名古屋市のU様邸にて上棟式が行われました。上棟式は建前や棟上げとも言われ、大工棟梁への感謝の気持ちを表す儀式として行われています。



現場では、上棟式直前まで上棟作業を進めます。木造二階建てのU様邸は、クレーン車で木材を吊り上げ、その木材を次々と二階や屋根にいた大工さんたちが受け取り、組み上げていきます。その様子は鮮やかで壮観です。普通の人なら足がすぐんでしまう高さで、華やかな仕事ぶりは、見飽きることがありません。

上棟式が近付くと、一階では社員の人たちが帚やちり取りを手に清掃に励みます。慣れた動きでみるみる塵ひとつない現場になっていき、棟札と扇を二階におまつりした後、いよいよ上棟式の始まりです。



施主様やご家族、工事にかかわるスタッフが揃うと、ここまですべて安全に進んできたことを感謝し、さらなる安全と無事を祈願します。挨拶を経て、全員の願いである「よい家が建ちますように」という気持ちが一つとなり、最後は乾杯の儀式で締められました。

施主のU様にお話を伺うと「平面や図面が立体になるタイミングなので、やはり感動がありますね。」と、とても感慨深そうな様子でした。

私たちが当たり前のように住んでいる家には、家を造る人たちが一人ひとりのこだわりや想いが込められていることを再確認できた上棟式でした。

おおぐえこぐえだより 〔番外編〕

編集長交代に伴うごあいさつ

私が空間上手に初めて関わったのは、2005年秋号（35号）のことでした。当時大学四年だった私は、取材のいろはも分からないまま、空間上手のライターとして活躍していた樋口尚子さんの取材に同行しました。初封面の樋口さんとお店の取材をし、とても緊張したことや、取材という方法でいろいろな方からお話を伺えることの魅力を実感したことは、今も深く印象に残っています。それから8年。空間上手を通して、新和建設という会社の魅力と、懐の深さ、そして何よりお客様を想う心の大切さを学ばせていただきました。これからも空間上手はさらにパワーアップしてみなさまの元に情報をお届けして参ります。これからも、応援のほど、お願いいたします。

編集人 伊東かおり

「愛され収納セミナー」が恵木の杜 恵のサロンで開催されました！

文・写真／大橋弘宣



10月19日・20日の2日間、恵木の杜・恵のサロンにて「愛され収納セミナー」が開催されました。参加者は奥様やご夫婦が中心で、講師は整理収納アドバイザーの大原友美さん。「3年前は私の家も全然整理されていませんでしたよ。」と語るご自身の家の3年前と今を比べたものを見ると、会場からは驚きの声が上がりました。

セミナーで紹介された話を2つご紹介しします。1つ目は、整理収納と聞くと収納グッズを買ってきただけで収納しよう！と考えるがちですが、実は「整理収納」で「整理」はその3分の2を占め、「収納」は残りの3分の1ということ。「整理」がない「収納」はありえないということ。「整理」が重要ということです。2つ目は、多くの家庭では物がたくさんあふれています。そのため、「整理」の段階で、区別して要らない物を決めることです。家中のボールペンを集めて、「要・不要・移動」という形に分けるなどをやって

みると、物の多さに驚くのでは？ということが紹介されました。

「いつかやろう」のいつかは来ない、「思い出のあるもの」は向き合って整理をするなど、講師の実践的な話に参加者の皆さんも納得されたようです。整理収納は何かセンスがないかと思いますが、整理をしてから収納をするなど、シンプルに考えると今度掃除する時が楽しみになりそうですね。

活ちる日々

新しい年はもうそこまで来ています。2014年は風水でいう「風の星」で、運気を大きく向上させるには自分にとって良い縁を得るために「思い立ったらすぐ行動」というスタンスで過ごすことが大切です。

と言われても引込み思案の人、自己表現が得意でない人はすぐに行動を起こす事はできにくいですね。



何か始めよう、行動しようとした時に一歩前に踏み出させてくれる力

四季折々、私たちの日々を彩り、楽しませてくれる植物について、ちょっといい話、役立つ知識を紹介します。

文・写真／山崎智子

添えをしてくれるのが、いちごのように丸くて可愛い「赤いセンニチコウ」です。

この花をそばに置いておくと自分を主張する力をくれます。また自分の気持ちを相手にはっきりと伝えられるようになります。

一歩踏み出すことでより良いご縁と出会い、素晴らしい年になりますように。

床の傷補修の仕方



補修可能床

- ・合板フローア全般
- ・無垢フローア(クリヤー塗装仕上げ)

必要な道具

- ・かくれん棒(色 3種類ほどで濃い色、薄い色、床に近い色)
- 傷を補修するパテ
- ・ライター
- ・スプーン
- ・カッターナイフ
- ・スクレーパー(床に傷が付かないようにしなる物を使ってください。)



①

床の傷



③

固まるまでまってから
スクレーパーで削る



②

「かくれん棒」を削ったものを
スプーンに載せて
ライターで溶かします。

ポイント

色が合わない場合は
何種類かの「かくれん棒」で
溶かして合わせてください。



④

仕上がりです。
余分についたところは
拭き取ってください。

今回の道具は全て100円ショップ、ダイソーさんで購入しました。ホームセンターでも購入できます。
「かくれん棒」はホームセンターの方が色の種類が多いです。難しくはありません、一度やってみてください。

発行
新和建設
発行人
吉村良三

編集人 湯浅千久

THANKS

成田香澄、梨本愛、大橋弘宜、武藤悠貴、山崎智子
都筑里美、加藤光博、村田元夫

取材協力

原育三さん・裕子さん
MODECO名古屋大須本店、愛知ボランティアセンター、大原友美さん

PRINTING

ブラザー印刷株式会社

編集後記

▶自宅がシェアハウスなのですが、最近や住人や関係者が増えて楽しい毎日です。皆で集まれる場所があるのはいいことですね。(武藤)

▶将棋にはまり中です。やっとプチ将棋大会も開催しました。一つの興

味から人が集まるのは楽しいですね！(大橋)

▶日常に流されると、「暮らす」ことをおぼなりにしてしまいがちですが、暮らしを整えることこそ、人生を豊かにするということを実感する今日このごろです。(伊東)



株式会社新和建設



本社・本店Life住宅館
愛知県北名古屋市野崎山神15番地
TEL 0568-23-0536 FAX 0568-22-3012



美濃加茂支店・夢の住宅館LEGEND
岐阜県美濃加茂市本郷町9-15-60
TEL 0574-25-6631 FAX 0574-25-6608



高山支店・LIVEすまいる館
岐阜県高山市松本町34-1
TEL 0577-32-8782 FAX 0577-32-8783



岐阜黒川支店
岐阜県加茂郡白川町黒川1646
TEL 0574-77-1314 FAX 0574-77-1314



黒川東展示場 黒川東中田ハウジングセンター内
愛知県名古屋市中区猿投町2
TEL 052-914-5730 FAX 052-914-5731



可児展示場 可児ハウジングセンター内
岐阜県可児市下恵土字針田4100
TEL 0574-61-1638 FAX 0574-61-0721



神宮東展示場 神宮東中田ハウジングセンター内
愛知県名古屋市中区三本松町25-1
TEL 052-883-5305 FAX 052-882-3581



多治見展示場 多治見ハウジングセンター内
岐阜県多治見市上山町1-4
TEL 0572-25-6777 FAX 0572-25-6858



鳴海展示場 鳴海ハウジングセンター内
愛知県名古屋市中区鳴海町伝治山3番地19
TEL 052-893-7575 FAX 052-891-1855



春日井展示場
愛知県春日井市西山町2丁目6番9
TEL 0568-86-8878 FAX 0568-86-8868



一宮展示場
愛知県一宮市丹陽町五日市場字本地38番地
TEL 0586-81-3375 FAX 0586-81-3376



各務原展示場 岐阜ハウジングギャラリー各務原内
愛知県各務原市蘇原青雲町3丁目41の1
TEL 058-371-7013 FAX 058-371-7014



蟹江展示場 CBCハウジング蟹江インター住いの公園内
愛知県海部郡蟹江町北新田1-60
TEL 0567-94-1555 FAX 0567-94-1556



岐阜県庁前展示場 岐阜ハウジングギャラリー内
岐阜県岐阜市藪田東1-3-20
TEL 058-272-1670 FAX 058-272-1671



木香の森 鹿田総合住宅展示場
北名古屋市鹿田合田240番
TEL 0568-68-6015 FAX 0568-25-0980



恵木の社 可児総合住宅展示場
岐阜県可児市下恵土2993-1
TEL 0574-63-0715 FAX 0574-63-7016